

まい 京都府議会議員 小原 舞 府議会報告 **My Wave No.6**



日頃は、おはら舞の議員活動に対しまして、格別のご厚情とご教示を賜り、心から感謝申し上げます。この度の21号台風の被害は、京都府全域で様々な爪痕を残し、舞鶴市は、大雨被害等により災害救助法及び被災者生活再建支援法の適用となりました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

12月2日に開会した12月定例会では、18号、21号台風被害が調査を進めるにつれ深刻さを増している現状を鑑み、台風被害に係る追加予算として、河川、道路、茶園の災害復旧をはじめ、京都府の基幹産業である大型定置網が広範囲に大規模被災したことを受けて、1億円規模の定置網の復旧に対する支援については、今回が初めてとなります。さらに、近年の内水氾濫被害の増大を踏まえ、内水を排水するためのポンプ2台を追加配備する等が計上され、災害対応力の強化を図ることとしています。京都府が、今年の台風災害復旧関連で組んだ補正予算はこれで100億円規模にのぼり、府民の皆さまが「安心・安全」に暮らすことのできる当たり前の日常を守ることの大切さを実感する一年となりました。

また、9月の定例会では、9月22日に一般質問、10月24日に決算特別委員会の総括質疑と2回も知事や理事者に地域でいただいたお声や地域振興について質問させていただきました。今後も、現地現場を大切に、細やかにご要望の対応をすることによって得られた課題をもとに、京都府へ政策提言を行ってまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

小原舞 拝

21号台風への対応について

台風襲来の翌日から、現場を確認し、早期の被害全容把握と対応について関係機関と連絡を取り、被災箇所の調査と今後の対応について要望し、協議を行ってきました。度重なる台風被害に対して、安心して生活していただくことができるように、今後も、河川氾濫や土砂崩れ、道路の崩壊等についてしっかりと検証し、河川整備計画の早期の実施と内水氾濫対策をはじめ、二次被害を防ぐためにも災害情報、交通情報等の情報発信のあり方についても取り組んでいきます。



冠水被害により収穫前の農作物がほぼ全滅に。由良川増水によりパイプハウスの天井を超える被害等については、若手の新規就農者の切実なお声をうかがいました(11月2日)。



山田知事の災害調査に同行し、高野川周辺では、「何度も何度も浸かり、またか・・・。」とお声をうかがい、早急な対策と12月補正予算での対応が図られました(10月25日)。

京都府議会 9月定例会(9/22)にて一般質問いたしました!

1. 京都舞鶴港振興について

1 知事をはじめ関係者と舞鶴港発の日本海周遊クルーズに乗船し、金沢港や博多港等の視察、釜山での京都舞鶴港セミナーに参加したが、乗船客の満足度を左右するのは、おもてなしの気持ちであり、舞鶴は十分誇れると感じた。寄港による経済効果、観光消費額を上げるためには、関西圏からの乗船客が乗船前から周遊、買い物など全ての魅力を味わえる企画や、府北部地域へのリピーター確保に向けたツアー会社に選ばれる体験型ツアーの提案が必要と考える。昨今の北朝鮮によるミサイル発射の影響が懸念されるが、日本海側周遊の魅力を広く伝えるには、京都舞鶴港クルーズの定着や更なる増加が必要であり、広報や効果的な取組についての決意について。

答弁

北部地域の魅力を広域で周遊体験できる観光プランの開発、クルーズの利用者の裾野を広げるため、クルーズの中身を、積極的にメディアも活用してPR、積極的に今後も誘致を目指して、海外の見本市・商談会へ参加する等、クルーズ船寄港地としての魅力をさらに高める取組をしっかりとっていく。



舞鶴寄港のクルーズ船のおもてなし。舞鶴小町踊り子隊の皆さんと。

2 日韓露国際フェリー航路の更なる運用について、また、京都舞鶴港と韓国間の直行経路の実現に向けた今後の具体的な取組はどうか。

答弁

具体的には、船会社とともに日韓の荷主企業へのポートセールスの強化を図っていき、韓国の地元自治体である東海市や関係団体と連携した、新規貨物に係る情報交換を実施するなど、直行航路の実現に向けてさらに積極的に取り組んでいきたいと考えている。

3 国際海上コンテナについて

① 今回の知事の釜山訪問により釜山と舞鶴との繋がりが強化されたが、釜山港との関係強化に関し、今後の取組について。

答弁

釜山港湾公社においても、今年度中に釜山港セミナーを京都で開催をしていただくことになり、釜山との新しい関係ができあがりつつある。この関係をしっかりとつくりあげて、日韓のコンテナ航路の開設、利用拡大をしていく。

② 西舞鶴道路の供用開始目標年度について、また、西舞鶴道路は道路局、臨港道路上安久線は港湾局と異なる事業主体であり、連携を図りスムーズで効果的な同時供用が実現できるのか危惧されるが、その対応について。

答弁

国道27号西舞鶴道路・臨港道路上安久線の事業調整会議を設置し、この中で、これから舞鶴港の港湾計画で平成30年代半ばを目標年次としているので、こうした点で両道路の供用開始に向けて国に対して要望している。

2. 府北部地域連携都市圏における地域交通ネットワーク高度化プロジェクトについて

1 少子高齢社会、人口減少社会を迎え、北部圏内の相互補完性を活用するためには、5市2町間の域内交通の利便性向上が不可欠であり、公共交通機関の接続の不便さ、本数の少なさについて、平成27年12月定例会で「検討事項や事業者に対して働き掛ける」と答弁があったが、その進捗状況も含め、今後、本府としてどのように事業者や市町村と連携し、地域交通ネットワークを考えるのか。

答弁

二次公共交通との乗継ぎについては、京都丹後鉄道の西舞鶴駅発の普通列車を毎時定時刻発とするパターンダイヤ化、鉄道ダイヤに合わせたバスのダイヤ改正による乗継時間の短縮、福知山・舞鶴市内のバス主要路線でのパターンダイヤ化などを実現している。ICカードの利用エリア拡大については、京都丹後鉄道線内の検討とともに、JR西日本に対し早期拡大の働きかけを行っている。